

氏 名：菅原 啓太

学位の種類：博士（看護学）

学位記番号：甲第 258 号

学位授与年月日：2024 年 9 月 17 日

学位授与の要件：学位規則第 5 条第 1 項該当

論文審査委員：主査 八重 ゆかり（聖路加国際大学教授）

副査 亀井 智子（聖路加国際大学教授）

副査 佐居 由美（聖路加国際大学教授）

副査 矢野 理香（北海道大学保健科学院教授）

論文題目：回復期リハビリテーション病棟の大腿骨近位部骨折術後患者に対する朝食前の手洗いケアの反応と特徴－快反応と回復意欲に着目した混合研究方法による検討－

博士論文審査結果

審査における主な指摘は以下であった。

本研究は、混合研究法の手法を用い、大腿骨近位部骨折術後患者への朝食前の手洗いケア介入が対象者の快反応を生じさせ、回復意欲の向上につながるかを検討するため、患者特性、快反応、回復意欲、これらデータ間の関係性とその特徴について量的・質的の両側面から記述・分析した研究である。

審査においては、以下の内容が主な修正コメントとして指摘された。

- 1) 介入の概念に含まれている「コミュニケーションの構成要素」は本研究での介入において重要な点であり、この点に関連した結果と考察の記述が十分なされることが求められる。
- 2) 対象者の年齢構成の特徴が結果にどのような影響を及ぼした可能性があるかを考察に追加するとよい。
- 3) 対象患者の分析では、回復意欲向上群と非向上群に分類しているが、この分類方法について具体的記述を追加する必要がある。
- 4) 快反応と回復意欲の質的データ分析から出された概念としては「術後患者が日常性の取り戻しを実感する」という視点が重要なのではないかと考えられるので、このような視点で患者の発言を捉え直し、質的データ分析に加えると良い。
- 5) 研究目的の表現に則した結論の内容とするために、結論の記述に内容を追加する必要がある。
- 6) 介入前と介入後の 4 時点で量的データを測定しているが、分析においては、介入前半時期と後半時期という 2 区間を設定し直して前後比較の形をとっている。そのような比較方法を用いた根拠の説明を追加する必要がある。
- 7) 食事摂取量に関する結果の表の中で、前後比較における変化割合の計算値を見直して正確な値を算出する必要がある。
- 8) 量的データと質的データの統合の適合性の判断に関する記述で用いられている確証、拡大等の用語の概念がより明確に伝わるような内容を追記すると良い。

以上の指摘に対して、適切な修正がなされたことを主査、副査で確認した。

本研究は、術後患者への朝食前の手洗いケア介入の影響を快反応、回復意欲という視点で捉え、混合研究法の収斂デザインの手法を用いて量的データと質的データを統合するという新しい分野のケア評価研究に挑戦したものである。難しい研究手法に真摯に取り組み、緻密な分析と丁寧な解釈を行った点は、そのオリジナリティとともに高く評価された。

以上により、本論文は、本学学位規程第5条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。